

## 今年も喜ばれるお米を

～令和4年産田植え開始～

J A管内で、5月中旬から下旬にかけて田植え作業が行われました。令和4年産は青天の霹靂が1053畝、まっしぐらが2427畝、つがるロマンが620畝の作付けを予定しています。

尾上地区の工藤憲男さんは5月15日、青天の霹靂の特別栽培米の田植えをしました。4月15日に播種し、草丈15センチ程度、葉齢3葉程度と生育順調な苗を後継者の憲児さんが植えました。工藤憲男さんは「安心安全を心がけ、消費者に喜ばれるおいしいお米を作りたい。また、青天の霹靂を食べたことがない人にも食べてほしい」と話しました。

青森県特別栽培農産物認証制度での米生産は、化学肥料の使用を慣行の5割以下とし、有機肥料5割以上を施します。農薬使用回数（成分）は、「青天の霹靂」の栽培基準となっている慣行の1/2以内である10成分より少ない8成分で栽培します。



田植えをする工藤憲児さん

## 農作業事故を無くそう

～スピードスプレーヤー安全運転講習会～

みなみ地区りんご共同防除連絡協議会は5月17日、平川市広船地区構造改善センター向かいの広場でスピードスプレーヤーの安全運転講習会を開きました。生産者約70人が参加し、農作業事故を未然に防ぐため運転方法を確認しました。講習会では、スピードスプレーヤーの取り扱いメーカーの社員が事故防止に向けた運転方法について説明しました。

また、実際にスピードスプレーヤーを用いて運転前の点検などを説明しました。



注意事項を説明するメーカー社員(右)

## 実用化に向けて

～ドローン水稲直播栽培試験～

尾上基幹グリーンセンターは5月11日、平賀地区の水田で農業用ドローンによる水稲直播栽培の試験を実施しました。ドローンを使用した直播栽培の生育などを調査することが目的で、今年で3年目となります。取り扱いメーカーの社員がドローン进行操作し、「まっしぐら」の種子を、約20畝の水田に10畝を播種しました。

今後は、農薬防除や追肥などの作業もドローンで行い、発芽率や品質、収量、収益性などを検証します。



ドローンで播種するメーカー社員